

平成30年度認定 (No.82)

# 農業名人

こんにやく名人 こまつ 小松 ちかお 智香男

昭和8年生まれ 駒ヶ根市在住

農ひとすじ



高校の農業科を卒業後、実家の農業を手伝い始める。30代の末ころ、同じ学校を出た農協の職員に、こんにやく栽培を勧められ始めることにした。当初は、こんにやく栽培について、あまり知識もなかったため、農協職員と一緒に試行錯誤しながら、少しずつ圃場を拡大していった。当時、こんにやくの価格は不安定であったが、農協と一緒に販売改革を行い、生協と契約をするようになってから、経営が安定するようになった。

当初より、こんにやく栽培の規模拡大や農業者の負担軽減には機械化が必要であると考えていたが、需要が少ないためメーカーからあまり使い勝手の良い機械が販売されていなかった。より使いやすくするために、市販品を改造したり、新しく製作したりする研究を、数十年間続けている。こんにやく栽培農家の経営向上につながるよう、毎年改良を加えている、座りながら植え付けができるものや収穫の際にこんにやくの根や土を分別できるものなどの機械を、仲間に積極的に紹介している。

平成12年から6年間、JAの理事を歴任し、地域の農業振興に貢献された。その後、体力的に厳しくなり、少しずつ農業を縮小していったが、2年ほど前に孫が就農したことを機に、平成28年に家族経営協定を締結。後継者育成のため、再度農業に力を入れている。

現在までに、農協のこんにやく部会の部会長を計4期8年間務めた。部会では、部員同士がそれぞれの圃場を回り意見交換したり、肥料や農薬のことなど気軽に相談したりして、お互いに切磋琢磨している。現在、幹事の立場で、今までの経験を仲間に伝えるなどして、地域のこんにやく栽培発展に尽力されている。

また、こんにやくに関する記録を取り、データを比較し、毎年栽培の手直しをしており、85歳になった今でも「今まで満足するこんにやくができたことはなく、これからもこんにやく栽培でやりたいことがたくさんある」とのことで、孫とともに日々最高のこんにやく作りに挑戦している。

